

厚生労働行政推進調査事業費補助金難治性疾患等政策研究事業  
(免疫アレルギー疾患等政策研究事業 (免疫アレルギー疾患政策研究分野))  
慢性腎臓病 CKD の診療体制構築と普及・啓発による医療の向上に関する研究  
分担研究報告書

研究分担者 南学 正臣 東京大学医学部附属病院・副院長

研究要旨

末期腎不全の医療は、国ごとに大きな違いがある。日本の腎臓病診療は世界のトップクラスであり、今後もこの誇るべき日本の診療体制を更に発展させ、国際的にリードしていくべきである。

**A. 研究目的**

海外のCKD医療の現状と対策等について検討し、CKD対策の全体像を俯瞰的に把握することにより、研究成果を客観的に分析・評価し、研究資源配分の最適化を図る上で基盤となる情報を構築し、さらにはCKDの医療水準の向上に貢献することを目的とする。

**B. 研究方法**

主任研究者が理事長をつとめる日本腎学会が国際腎臓学会 **Frontiers meeting** を招聘し、また分担研究者が理事をつとめる国際腎臓学会が末期腎不全サミットを開催し、各国の腎臓病対策に関する情報を収集するとともに、その他の国際学会にも参加して密な情報交換を行う。

(倫理面への配慮)

検討は総論的なもので、個人情報扱いや介入研究は行っておらず、倫理面の問題は無い。

**C. 研究結果**

先進国では、末期腎不全の医療は保険制度でまかなわれているが、治療内容としての血液透析、腹膜透析、移植の比率については、国ごとに大きく異なる。本邦における腎臓病患者の予後は世界トップクラスである。

**D. 考察**

末期腎不全の医療内容の国による違いは、各国の地理的事実、人口密度、文化的背景など、様々な要

素によるものと考えられる。本邦における腎臓病患者の予後が良いことについては、国と学会が密接に協力し、長期戦略をたてて適切に対応を続けてきたことが大きな要因と思われる。

**E. 結論**

今後も国際的な標準治療の情報を収集するとともに、世界に誇るべき日本の腎臓診療体制を更に発展させ、腎臓病診療を国際的にリードしていくべきである。

**F. 健康危険情報**

**G. 研究発表**

**1. 論文発表**

なし

**2. 学会発表**

なし

**H. 知的財産権の出願・登録状況**

(予定を含む。)

**1. 特許取得**

なし

**2. 実用新案登録**

なし

**3. その他**

なし